

たかくらっ子だより

発行責任者 渡辺 博明 発行日：令和3年9月30日

学校教育目標：自ら未来を拓き、共によりよく生きる子どもを育てる



HPのQRコード

実りの10月を目指して

吹く風もすっかり秋らしくなり、学校のコスモスも穏やかに揺れています。早いもので明日から10月に入ります。5・6年生は、10月13日(水)の市陸上競技交歓会を目指して、一段と練習に熱が入ってきました。また、下の学年は、目標に向かってひたむきに励む先輩の姿をしっかりと目に焼き付けています。

さて、10月30日(土)には、土曜参観を実施いたします。本来であれば、ご家族や地域の方々を多数お招きして、子ども達の学習の成果を「たかくらっ子フェスタ」という形でご覧いただく



揺れるコスモス ~正門にて~



一足先に「実り」を収穫(5年)

ところでしたが、このコロナ禍において、室内の同一空間に多くの方を集めることは時期尚早と判断し、「学級ごとの授業参観」「保護者のみ参加」の土曜参観とさせていただきます。くわしくは、9月28日に配付しました「土曜参観のお知らせ」をご参照ください。

10月は、子ども達の努力が形となって表れ、大きく成長する月でもあります。「実りの10月」となるよう児童、教職員一丸となって励んでいきます。保護者及び地域の皆様には、引き続きご理解とご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

白線に思う

「なんで子どもは、校庭を走っか知ってがい？」

教員となって1年目。体育指導で名の通った大先輩の先生に問われました。「元気だから」「子どもだから」などと微妙な回答をする私に、大先輩は、個性的なイントネーションで一言。「そこに、白い線があっからだべした。」

またある日、まっすぐな白線が引けない私に、大先輩は、個性的なイントネーションで一言。「目の前ばっか見てっから曲がんだ。遠ぐの目標決めて、それ見て進んでみ。」

「しかし、白線は引き続けっと、消えねぐなんのな。『根付く』つつうやづな。」

あれから何十年。校庭に引かれる白線を見るたびに、あの先輩の言葉がまた違った意味をもって思い出されます。「適切な環境や支えがあれば、子ども達は自ら動き出すということ」「しっかりとしたビジョンがあれば、ちょっとやそっとのことで理念はぶれないということ」「愚直に繰り返すことの大切さ」。今は、あの時の教えを高倉の子ども達に返していきたいと思うばかりです。

「ちいっとは、わがってきたがい。」

と、いつか先輩に、あの大好きだった個性的なイントネーションで声をかけてもらうその日を目指して、これからも励んでいきたいと思えます。



白線の力。上がり！モチベーション